

国際会議報告

第 23 回国際分光学会議および
第 10 回国際原子分光学会議*

尾崎 太**

1983 年 6 月 26 日～7 月 1 日に、オランダ、アムステルダム の Internationaal Congressentrum RAI に おいて第 23 回国際分光学会議および第 10 回国際原子 分光学会議 (The 23rd Colloquium Spectroscopicum Internationale including the 10th International Conference on Atomic Spectroscopy) が開催された。本会 議はオランダ王立化学会および同分析化学部会の主催、 国際純正応用化学連合の後援で開かれたもので、参加国 は 33 か国、登録者数は 628 名であった。国別では地 元オランダ 136 名、イギリス 76 名、西ドイツ 75 名、 アメリカ 50 名、フランス 42 名、日本 31 名がおもな ところであった。

会議は 6 月 27 日午前の opening ceremony から始 まり、29 日の Zeeland 地方への full day excursion をはさんで正味 4 日間行われた。発表件数は Keynote (オランダの P.W.J.M. Boumans 博士) 1 件, Plenary lecture (不破敬一郎東大教授を含めて) 4 件, Invited lecture 18 件, Oral session (session 数 12) 55 件, Poster session (session 数 43) 302 件の計 380 件であつた。会議の進行は、午前中 Plenary lecture に引き続き 3 会場に分かれて Invited lecture と Oral session, 午後は Invited lecture の後会議場 2 階のフロアにおいて Poster session と Poster discussion が行われた。また会議に平行して 1 階フロアにおいて分析機器展も開かれた。

会議の内容については、分光学の基礎から応用までの 広範囲にわたっており、その報告は筆者の能力をはるかに上まわるので、表 1 に示す Poster session のタイトル と発表件数で判断していただきたい。

会議の詳しい内容については Abstracts-Spectrochimica Acta, 38 B, Supplement 1983 および近日中に出版される Proceedings を参照して下さい。

本会議で特徴的なことは、Poster session の占める比重が大きく (全発表の 80%)、毎日午後 3 時から 5 時まで session が行われたことで、興味ある試みだと感じた。筆者の発表も Poster session で行つたので、発表する立場と聴講者の立場の両方を体験できた。発表する立

* 本国際会議出席にあたっては、日本鉄鋼協会日方向学術振興交付金が賦与されました。

** 金属材料技術研究所

表 1 Poster session のタイトルと発表件数

タ イ ト ル	発表件数
1) Plasma source	11
2) Plasma emission spectrometers	8
3-5) ICP	20
6) DC plasma, DC arc, spark	7
7) Glow discharge lamp	5
8, 9) Atomic emission spectrometry (AES)	12
10) Echelle spectrometers and spectrometers using TV camera detectors	6
11) Spectrometers for electrothermal atomization (ETA)-atomic absorption spectrometry (AAS) or ETA-AES	4
12) ETA-AAS/AES	13
13) ETA/AAS	7
14, 15) AAS	12
16) Flame AAS/AES	8
17, 18) Atomic spectrometry	16
19) Hydride techniques in atomic spectrometry	11
20) Analytical applications of molecular spectra emitted from flames or plasmas or absorbed in furnaces	5
21) Spectrometric techniques using magnetic fields	5
22) Atomic fluorescence spectrometry	7
23) Laser (s) (in) spectrometry	3
24) Preconcentration	6
25-27) X-rays	23
28-30) Infrared and Raman spectroscopy	15
31, 32) UV-VIS spectrometry	12
33) Phosphorescence/fluorescence spectrometry	5
34) Surface analysis	8
35) Mass spectrometry	6
36) Standard reference materials and methodes	9
37) Applications: environmental	14
38, 39) Applications: geochemical-petrochemical-geological	19
40, 41) Applications: biological-clinical-pharmaceutical-agricultural: food	19
42, 43) Applications: metals and industrial materials	22

場では 2 時間の拘束はきつかつたにもかかわらず、対話しながら説明できるので得るところが大きく勉強になつた。聴講者の立場では興味のある発表を自分自身で自由に選択して、質問が気軽にできるところに魅力があつた。各 poster session にはそれぞれ座長がおり、session 終了後各 session ごとに 30 分間の discussion が行われた。筆者の属した session は Applications の session で discussion の核になるような相互関連性があまりなかつたので活発な議論にはならなかつたが、他の session では相当活発に議論されたところも結構あつたようだ。会場および session をどう設定するかという問題はあるが、当協会でも poster session を積極的に拡大強化していかれてはいかがでしょうか。

会議の期間中、国立博物館での official reception, ヒルトンホテルでの dinner party また同伴者のための小旅行などのプログラムも用意された。とくに official reception はレンブラントの夜警の絵の前での立食パーティーで、日本ではちよつと考えられないことなので、驚くと同時にまた感激した。

最後に、本国際会議は第 1 回日方向学術振興交付金により出席できたもので、ここにそのことを記すとともに筆者にこの機会を与えて下さつた日本鉄鋼協会にたいして深く感謝する。